

学びのUD化チェックリスト

チェック数

環境づくり	No.	意欲や成長を促す言葉かけ	チェック
	1	長所やできていることを認め、ほめ、はげます言葉かけをしている	
	2	望ましい行動を子供自身に意識づけられるような言葉かけをしている	
	3	行動の背景や理由を子供に聞いたり、教師自身で考えたり、理解した上で指示や言葉かけをしている	
	No.	指示の伝え方	チェック
	4	簡潔で分かりやすく、ゆっくり、はっきり短い言葉で指示したり話したりしている（「1つめは～です」「2つめは～です」等）	
	5	一つの指示に対して一つの行動ができるように指示している（聞くとき、書くときを明確にする）	
	6	曖昧な言葉を使わず、具体的な言葉で指示するようにしている	
	7	複数の指示をするときは、視覚的にも分かるように指示している	
	8	否定、命令、禁止の言葉ではなく、肯定的で次の行動につながる言葉かけをしている（「～しない」「～なさい」より「～しよう」等）	
	No.	ルール作り	チェック
	9	給食や掃除のきまり、学校生活や授業において守るべきルール等を明確に示している	
	10	整理整頓の仕方を決めて指導している	
人間関係づくり	No.	掲示	チェック
	11	教室の前面は必要なもののみ掲示している	
	12	1日や1週間の予定を見やすく掲示している	
	13	急な予定変更は早めに、視覚的に分かりやすく示している	
	No.	肯定的な人間関係づくり	チェック
	14	一人一人が活躍したり、認められたりする場をつくっている	
15	一人一人の個性や違いを認め合える雰囲気や、分からないことや間違いを否定的に見ない雰囲気を作るようにしている		
16	教師自身が、特別な支援が必要な子供に対するかかわり方のモデルを示している		
授業づくり	No.	授業の流れ	チェック
	17	チャイムと共に始まり、チャイムと共に終わる授業を心がけている	
	18	単元や本時の初めに目標や学習の流れを示し、見通しを持って取り組めるようにしている	
	19	授業の流れが分かるよう、板書の構成の工夫をしている	
	20	導入では、興味・意欲・関心を高め、「学んでみたい」と思えるような工夫をしている	
	21	展開では子供の実態に応じて自力解決ができるような手立てや教材・教具の準備をし、分かりやすく掲示している	
	22	まとめでは「わかった」「できた」という満足感・達成感を実感できるような活動を工夫している	
	No.	授業の形態	チェック
	23	ねらいに応じて様々な学習形態の工夫をしている	
	24	集中力に配慮した授業構成や学習活動を工夫している	
	25	学び合いが主体的にできるように、その方法や役割分担等を明確に示している	
	No.	個別の指導	チェック
	26	全体指示では伝わりにくい子供には、個別に指示している	
	27	学習に使う準備物を忘れがちな子供への配慮をしている（明確な指示や指導）	
	28	書くことが苦手な子供への配慮をしている（時間の確保、板書の範囲を決める等）	
	29	机間指導で、内容理解を確認したり、個に応じた指導や言葉かけをしたりしている	
	No.	板書の工夫	チェック
	30	授業の流れが分かるよう、板書の構成の工夫をしている	
	31	チョークの色や字の大きさなど、子供の「見やすさ」という視点に立って板書している	
	32	大切な点やポイントが分かるような板書をしている（ライン、枠囲み、矢印、記号等）	
	No.	教材・教具等の工夫	チェック
33	ノートの取り方やファイル・プリントの整理の仕方等を指導している（モデルの提示等）		
34	提示する内容をより分かりやすくするための教材・教具の準備や工夫をしている（具体物、写真、絵、動画、ICT活用など）		
35	子供の発達段階や学び方に合わせた教材・教具の準備や工夫をして、子供が選択できるようにしている（プリントの種類【基礎・応用等】や大きさ、読みやすさ・書きやすさへの配慮、課題の量、道具・用具等）		
No.	座席の配置	チェック	
36	子供の実態に合わせた座席の位置にしている		

児童生徒の特性に応じた学習上の支援のポイント

特性	特性の具体的状況	学級全体での対応例
聞く	聞き間違いが多かったり、指示の理解が難しかったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・指示や聞いたことを復唱してみる。 ・分からなかった時のルールを決める。 ・指示を短く、大切なことは文字や絵で示す。 ・話を聞くときと書くときを分ける。 ・座席の工夫
話す	適切な速さで話すのが難しかったり、内容を分かりやすく話したりするのが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・話の途中で適切な言葉を補う。 ・5W1Hカード等の手掛かりを用意する。 ・少人数の安心して話せる場を用意する。 ・うまく話せないときに「お助けサイン」などの学級のルールを決めておく。
読む	音読が難しかったり、読み間違いが多かったりする。文章の要点を読み取ることが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・読む時間を確保する。せかさずさりげないフォローを入れていく。 ・短い文章をたくさん読むようにする。 ・読みを補助する教材・教具や物差しなどの使い方を全体に示しておく。
書く	読みにくい字で書いたり、書き間違いが多かったりする。決まったパターンの文章しか書けない。	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くときに言葉にして書くようにする。 ・話を聞くとき、書くときの活動を分ける。 ・書く時間を確保する。 ・書く量の調整を図る。板書の必要な箇所の囲みなどを工夫する。 ・ノートの使い方を指導する。
計算・推論	計算が苦手や学年相応の文章題を解いたり、図形を書いたりするのが難しい。先を見通して取り組むことが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を聞いたり読んだりする時間と計算したり考えたりする時間を分ける。 ・視覚的な手掛かりや具体物を使用する。 ・活動の手順を細かく分け明確化する。 ・考え方や立式の仕方が分かるワークシートや習熟度別のワークシートを準備する。
不注意	学習で不注意な間違いが多い。集中力が乏しく最後までやり遂げることが難しい。物事を順序立てて行うのが難しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を短い時間ごとに分けて構成する。 ・導入で注意を引くような指示やゲームなどをする。 ・忘れ物に配慮しておく。 ・机間巡視で必要なアドバイスをする。 ・学習の流れを提示し、今どこを学習しているか確認できるようにする。
多動性	離席が多く、そわそわしている。順番を待つことが難しい。他の子の邪魔をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くだけの時間を減らす。グループ学習など授業の形態を工夫する。 ・学習のルールを明確化する。できているときにしっかり褒める。

学びのUD化が学校を変える！

学校あげて 学びのUD化を進めよう！

熊本県立教育センター 人権教育推進プロジェクトチーム

「UD」とは？

「UD（ユニバーサルデザイン）」とは、製品・建物・環境を、あらゆる人が利用できるようにはじめから考えてデザインするという概念で、障がい・年齢・性別・言語等、人が持つそれぞれの違いを超えて、すべての人が暮らしやすくなることを前提としています。

「学びのUD化」とは

すべての児童生徒が安心して学べる教育環境を整備することです。

「学びのUD化」 はなぜ必要？

子どもたちの思いは

思いに「ずれ」はありませんか？

教師の思いは

話し合い？
何をどうしたらいいか
分からないよ……

話し合いをしてほしいんだけど
騒がしいなあ。

去年と同じように、プリントは一番前の席の人が、後ろのみんなに配りに行くんだよね。

プリントは前から後ろにまわしていくのが当たり前だと思うけど。なぜ立つの？

こんなこと言ったらみんなに認めてもらえないかも？

どうして黙ったままなのかなあ？

「児童生徒が安心して学べる教育環境」とは、安心できる人間関係や環境の中で、分かりやすい授業が展開されているということです。この「教育環境」を整備することにより、子どもたちは基礎的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことができます。

「学びのUD化」を進めることは、確かな学力、豊かな心など「生きる力」をはじめ、人権を尊重する態度などをはぐくむとともに、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えることにつながります。

第2期くまもと「夢への架け橋」教育プランには、次のように示されています。

- すべての児童生徒が理解しやすいユニバーサルデザインの視点に基づいた授業の改善
- 障がいのある人もない人も共に学ぶことのできる教育環境づくり

「学びのUD化」を進める ポイントは？

学びのUD化は、次の3つの視点がポイントです。
それぞれの学校での実践を踏まえながら進めてみましょう。

① 環境づくり

言語環境・生活環境を整えましょう

教職員全員の共通理解のもと「学びのUD化」を進めることで、児童生徒は学年・学級が変わっても、とまどいが軽減され、安心して過ごすことができます。

例：意欲や成長を促す言葉かけ、指示の伝え方、
学校生活を送るうえでのルールづくり・・・等

② 人間関係づくり

支持的風土づくりに努めましょう

1日の大半を過ごす学校は、児童生徒の生活の中心となる場所です。安心して生活できるよう、互いのよさや違いを認め合える温かい人間関係づくりが必要です。

例：共感的な人間関係づくり
・・・等

③ 授業づくり

「分かる」授業づくりを目指しましょう

特別の支援を必要とする児童生徒の特性等を踏まえた授業づくりを意識することは、すべての児童生徒にとって分かりやすい授業づくりにつながります。

例：授業の流れ・授業形態の共通化、
個別の指導、板書の工夫、
教材・教員の工夫、
座席の配置、・・・等

進め方は？

教職員全員でUD化の必要性を共有

学校全体で取り組もうという意識を高めましょう

各教師の「学びのUD化」
実践の洗い出し

各教師のこれまでの取組を出し合ひましょう
みんなでできる取組として修正しましょう

ワークショップ

- ・上記3つの視点での洗い出し
- ・個々のすれを教師の協働で修正

実施計画の作成

付加価値

- ・外部講師(OFF-JT)等による新たな学び
- ・PDCAのサイクルでスパイラルアップ

学校独自の「学びのUD化」実現

教職員全員のこれからの取組として計画
※目標の明確化と具体的な行動計画
そして実践！
チェックと修正をしながらスパイラルアップ
もちろん、外部からの情報も取り込みながら・・・

★「学校マネジメント推進」リーフレット
★「OJT推進」リーフレット
も併せてご覧ください

「チェック」「修正」って、いつ？ どうやる???

- 月ごと・学期ごとを基準として、教職員全員が望ましいが、学年や学部を最小単位にして。
- 目標を明確にしたチェックシートやアンケートの活用など、できるだけ客観的な評価で。

注意！

目標は「学びのUD化」ではありません。
「生きる力」の育成です。

学びのUD化取組の視点(例)



① 環境づくり

意欲や成長を促す言葉かけ

- 長所やできていることを認め、ほめ、はげます言葉かけをしている。
- 望ましい行動を子ども自身に意識付けられるような言葉かけをしている。
- 行動の背景や理由を子どもに聞いたり、教師自身で考えたり、理解したりした上で指示や言葉かけをしている。

指示の伝え方

- 簡潔に分かりやすく、ゆっくり、はっきり短い言葉で指示したり話したりしている。
(「一つめは～です」「二つめは～です」等)
- 一つの指示に対して一つの行動ができるよう指示している。(聞くとき、書くときを明確にする)
- 曖昧な言葉を使わず、具体的な言葉で指示するようにしている。
- 複数の指示をするときは、視覚的にも分かるように指示している。
- 否定、命令、禁止の言葉ではなく、肯定的で次の行動につながる言葉かけをしている。
(「～しない」「～しなさい」より「～しよう」等)

ルール作り

- 給食や掃除のきまり、学校生活や授業において守るべきルール等を明確に示している。
- 整理整頓の仕方を決めて指導している。

掲示

- 教室前面は必要なもののみ掲示している。
- 1日や1週間の予定を見やすく掲示している。
- 予定の変更は早めに伝え、視覚的に分かりやすく示している。



② 人間関係づくり

共感的な人間関係づくり

- 一人一人が活躍したり、認められたりする場をつくっている。
- 一人一人の個性や違いを認め合える雰囲気や、分からないことや間違いを否定的に見ない雰囲気をつくるようにしている。
- 教師自身が、特別の支援を必要とする子どもに対するかかわり方のモデルを示している。



③ 授業づくり



授業の流れ

- チャイムと共に始まり、チャイムと共に終わる授業を心がけている。
- 単元や本時の初めに目標や学習の流れを示し、見通しを持って取り組めるようにしている。
- 導入では、興味・意欲・関心を高め、「学んでみたい」と思えるような工夫をしている。
- 展開では子どもの実態に応じて自力解決ができるような手だてや教材・教具の準備をし、分かりやすく提示している。
- まとめでは「分かった」「できた」という満足感・達成感を実感できるような活動を工夫している。

授業の形態

- ねらいに応じて様々な学習形態を工夫している。(ペア、グループ、一斉など)
- 集中力に配慮した授業構成や学習活動の工夫をしている。
- 学び合いが主体的にできるように、その方法や役割分担等を明確に示している。

個別の指導

- 全体指示では伝わりにくい子どもには、個別に指示をしている。
- 学習に使う準備物を忘れがち子どもへの配慮をしている。(明確な指示や指導)
- 書くことが苦手な子どもへの配慮をしている。(時間の確保、書く場所の限定等)
- 机間指導で、内容理解を確認したり、個に応じた指導や言葉かけをしたりしている。



板書の工夫

- 授業の流れや内容が分かるよう、板書の構成を工夫している。
- チョークの色や字の大きさなど子どもの「見やすさ」という視点に立って板書をしている。
- 大切な点やポイントが分かるような板書をしている。(ライン、枠囲み、矢印、記号等)

教材・教具等の工夫

- ノートの取り方やファイル・プリントの整理の仕方等を指導している。(モデルの提示等)
- 提示する内容をより分かりやすくするための教材・教具を工夫している。
(具体物、写真、絵、動画、ICT活用など)
- 子どもの発達段階や学び方に合わせた教材・教具の準備や工夫をして、子どもが選択できるようにしている。(プリントの種類(基礎・応用等)や大きさ、読みやすさ・書きやすさへの配慮、課題の量、道具・用具等)

座席の配置

- 子どもの実態に合わせた座席の位置にしている。

★「授業改革推進」リーフレット
★「教育の情報化推進」リーフレット
も併せてご覧ください

教師側の目線だけではなく、**子どもたちの目線で見ることがポイント!**
ここに示す以外の具体的な手だても考えてみましょう。